

## 正しい点眼法について 第一回

今回のフジタガンカニュースでは、眼科の基本ともいえる「目薬の使い方」について説明をしようと思います。眼医者の仕事は「目の病気を治す事」ですが、その内容を細かく分析すると…「医者が患者さんに目薬の種類とつけ方を指定する→患者さんが頑張って目薬をつける→目の病気が治る」という構造になっている事がほとんどです。眼医者さんの中には「僕は手術が専門だから、僕のお蔭で病気が治っているんだよ。」と仰る方もあるかもしれませんが、案外そうでもありません。手術の前後にも目薬は必須です。感染症や術後炎症への対応、術後合併症の予防など…目薬に頼る比重が、実は手術においても大変大きいのです。「それは他の内科や外科でも一緒では？」という意見もあるでしょう。しかし、他科の先生が扱う薬剤はそのほとんどが飲み薬（もしくは点滴）です。一部、皮膚科的な軟膏くらいはあると思いますが、目薬と比較するとどうでしょうか？飲み薬を飲み忘れることはあっても、飲んだつもりで飲んでないという事は稀でしょう。（通常、そういうことはありませんよね(^\_^;)）皮膚に軟膏を塗るにしても、塗ったつもりで塗れていないってことも少ないはず。ところが、目薬の場合はそうでもないのです。目薬が目に入っているかどうかを自分で確認することって…実はかなり難しいのです。若い世代の人なら感覚も敏感なので「しみる！」とか「見え方がぼやける感じがした…」など、割と簡易に判定できると思いますが、しかし、年配の方になると感覚は鈍くなっていくし視力が悪いことも多く「多分入ったわよね、今…」という事が多いと思うのです。また、点眼の液体はアイザック・ニュートンが発見したことで有名な万有引力の法則に基づいて滴下することになっています。つまり理論的に考えると顔の向きが真っ直ぐに天井を向かないと液体は目に向かず頬に向かって落ちてしまうことになりま。これまた、お若い方なら簡単にできる…「座位で顔を天井に向ける姿勢」も腰の悪いお爺ちゃんお婆ちゃんにはとても難しい作業なのです。またそこを了解した上で、さらには薬局さんなどで「目薬は一滴で十分！何滴も使うのは勿体ないのよ！」なんてアドバイスをされたことも踏まえて、点眼ピンの先がどんどん目に近づいていき、白目の部分に目薬の先を押し当てて点眼をしているケースもあります。これが続くと目が赤くなったり痛くなったりするので眼科で相談をされるのですが、治療をしようと思って目薬を増やしても逆に悪化してしまうので中々治らずに困ってしまう事になります。こうした事を疑う場合には思い切ってすべての目薬を中止するのですが、病気が悪化しているのに治療を止めるために患者さんにも納得が得られずに苦労することもあるので。また、経験的には緑内障の患者さんの場合に多いのですが、目薬を使って正常値内に安定していた眼圧が徐々に上がっていった場合「このままじゃ病気が悪化してしまいますよ！」と少し怖い話をし、ご家族の方にしっかりと外から確認しながら目薬をつけてもらうだけで眼圧が正常値に戻る事はよくあることです。「正しく目薬をつけることって意外と難しいのだな」と気づかせら

れるエピソードですよ。

では本題に入りましょう！

自分で目薬をつける場合に気を付けるポイントは

### 1) 確実に薬が白目の部分に入るようにする事

### 2) まつ毛もしくは白目には点眼瓶の先が触らないようにする事

の二点です。細かい手技の正確さにこだわる必要はありません。上手くできる自信がつくまでは、どなたか家族の方に見てもらい確認すると良いと思います。

#### A) ゲンコツ法

- ① 利き手で点眼容器を持ちます。反対側の手で握りこぶし(ゲンコツ)を作ります。
- ② ゲンコツの親指側を点眼する側の頬に当て、下まぶたを下げるようにします。
- ③ しっかり上(天井)を見るように顔を上げ、点眼薬を持った利き手をゲンコツの上に乗せて、点眼をします。慣れるまでは、点眼瓶の先の位置が不安定な感じがするかもしれませんが、こうすることで点眼瓶の先がまつ毛や目に直接触れることを防ぐことができます。

※上に顔を向けづ

らい場合は、仰向けに横になった体勢でさすと良いです。今回は誌面の都合でここまで。次回はその他の点眼法について解説します。

お楽しみに-(`\_`)>



A) ゲンコツ法

## 今月のお知らせ

皆様から長年ご愛顧頂いたフジタメガネは、店主高齢のため3月一杯をもって閉店させて頂きました。メガネ業務についてはオグラメガネさん、コンタクトレンズ業務についてはアイシティさん、白内障術後の連続装用コンタクトレンズ「プレス・オー」と加齢黄斑変性に対するオキュバイトについては藤田眼科で業務を引き継ぎます。また今後、保健所の認可と卸業者との契約を交わしワンデータイプの使い捨てソフトコンタクトレンズとハードコンタクトについては藤田眼科にて業務を再開する予定ですが、現在その期日は未定です。また、安全面への配慮から2週間タイプ及び1ヶ月連続装用タイプのコンタクトレンズについては取扱いをしない予定です。ご迷惑をお掛けして、大変申し訳ありませんがご理解のほど宜しくお願い申し上げます。詳細については受付にお尋ね下さい<(\_ \_)>



Fujita Eye Clinic

藤田眼科

042  
(645)  
0575